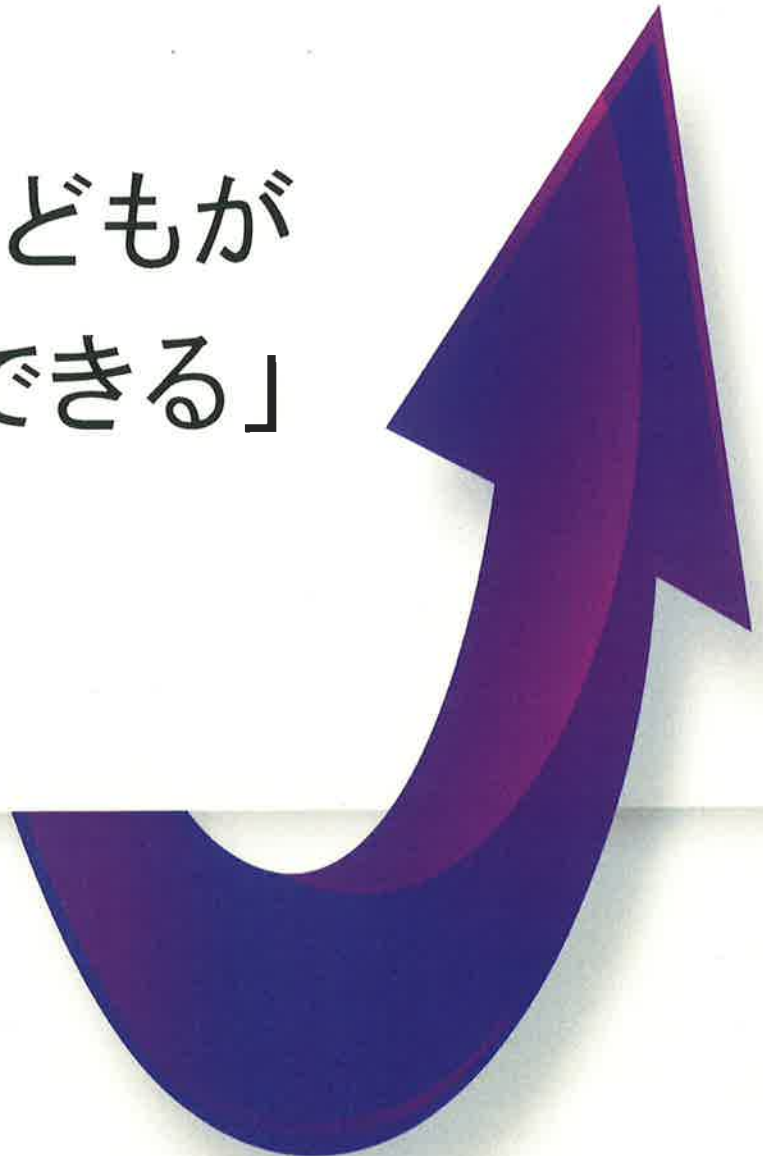


# ICT活用事例集



すべての子どもが  
「わかる」「できる」  
授業づくり



岩国市立麻里布小学校  
岩国市立麻里布中学校

ICT 活用事例

日付	6 月 13 日	学年	2 年	単元名	名前を見てちょうだい
		教科	国語		
本時のめあて		人ぶつのような声をやうごきであらわそう。			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード・teams・その他 (タブレットのカメラ機能)			
	活用した 機能	動画			
	目的	自分の声や動きを動画で確認することで、客観的に自分を捉え、改善できるようにする。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①音読発表会に向けて、登場人物になりきって音読するポイントを確認する。(焦点化)</p> <p>②グループでそれぞれ役割を決め、音読練習をする。</p> <p>③グループで録画し、ビデオを再生して自分の声や動きを確認する。[ICT]</p> <p>④繰り返し練習しながら改善していく。(視覚化)</p>			<p>・練習後すぐに録音を聞くことで、普段は聞いたり見たりすることのできない自分の声や動きを確認できるため、ポイントに気をつけて音読できているか意識して見て、改善に生かすことができていた。</p> <p>・グループごとで音読発表会を行うため、録音もグループごとで行ったが、はじめは二人組で録音し合って何度も自分の声や動きを確認できるようにしてもよかった。</p>		
写真・資料・板書等					
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>・ ・ ・ ・ ・</p> <p>う 気 (ゆ は 声 ポ</p> <p>ご も (ゆ は 声 イ</p> <p>き ち く や の ン</p> <p>を り さ 大 ト</p> <p>こ ・ は 小</p> <p>め は や く</p> <p>る</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>わ 声 人</p> <p>そ や ぶ</p> <p>う う つ</p> <p>。 の</p> <p>ご よ</p> <p>き う</p> <p>で す</p> <p>あ ら</p> <p>を</p> </div> </div>					

ICT 活用事例

日付	7月13日	学年	3年	単元名	「ほけんだより」を読みくらべよう
		教科	国語		
本時のめあて		どちらのほけんだよりを選んだか、理由をつけて発表しよう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	友だちがどうしてそちらのほけんだよりを選んだかを知る。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①一つ目のほけんだよりと二つ目のほけんだよりのどちらがいいかを選ぶ。</p> <p>②どうしてそちらのほけんだよりを選んだのか、クラゲチャートに、思いつくだけ理由を書く。</p> <p>③クラゲチャートに書いた理由を整理する。(焦点化)</p> <p>④整理した理由を文章にまとめる。どちらの文章を選んだかが分かりやすいように、カードを赤と青で色分けする。</p> <p>⑤まとめた文章の写真を提出ボックスに送り、友だちの選んだ理由を閲覧する。(共有化) [ICT]</p> <p>⑥どちらのほけんだよりを選んだかを理由をつけて発表する。(共有化)</p>			<p>・思いつく理由を一つずつクラゲチャートに書き込むようにさせたことで、スムーズに取り組むことができた。</p> <p>・オクリンクの機能を活用したことで、いろいろな友だちの考えを共有することができた。また、一つ目の文章を選んだ人は赤色、二つ目の文章を選んだ人は青色に、カードの色を変えたことによって、友だちがどちらの文章を選んだかが分かりやすくなった。</p> <p>・提出ボックスに上げられた友だちの文章を開き、じっくり読むことによって、「説得力があるな」などの声があがり、良さを見つけることができた。</p>		

ICT 活用事例


日付	7 月 1 日	学年	3 年	単元名	はりねずみと金貨
		教科	国語		
本時のめあて		友だちの「あらすじカード」を読んで、自分の「あらすじカード」と同じところと違うところを確かめ合おう。			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した 機能	オクリンク			
	目的	友だちの「あらすじカード」を読み、自分の「あらすじカード」の文章との共通点、相違点を見つける。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>①前時までに書いた場面ごとの出来事の文をつなぎ、あらすじをまとめる。</p> <p>②カードに書き上げたあらすじを整理する。(焦点化)</p> <p>③あらすじカードの写真を提出ボックスに送り、友だちの書いたあらすじを閲覧する。(共有化) [ICT]</p> <p>④友だちの作成した「あらすじカード」を読んで、自分の「あらすじカード」との共通点、相違点を見つける。</p> <p>⑤よいと思った「あらすじカード」を、理由をつけて発表する。(共有化)</p>	<p>・オクリンクの機能を活用したことで、いろいろな友だちの考えたあらすじを共有することができた。</p> <p>・友だちの作成したあらすじを読んで、「〇〇のところがうまくまとまってよかった」というように、具体的な表現にふれて、よさを見つけることができた。</p>

写真・資料・板書等



ICT 活用事例

日付	7月13日	学年	4年	単元名	広告を読みくらべよう
		教科	国語		
本時のめあて		身の回りの広告から表し方の工夫を見つけ、作り手の意図を考えよう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他(カメラ)			
	活用した機能	写真			
	目的	自分の見つけた表し方の工夫や意図を共有化するため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
①前時までに確認した表し方の工夫をテレビ画面に提示する(焦点化) [ICT] ②自分の選んだ広告を写真に撮り、表し方の工夫に印をつける。(視覚化) [ICT] ③写真を見ながら発表する。(共有化) [ICT] ④作り手の意図を考える。			・前時までの内容を画面で確認することで、広告の工夫を見つける活動にスムーズに入ることができた。 ・児童が自分のタブレットで広告に印を付ける過程で、考えを整理することができた。 ・印を付けた広告を見せながら発表することで、考えを共有することができた。 ・見つけた工夫には、どのような作り手の意図があるのかを考えることが難しかった。		
写真・資料・板書等					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%; background-color: #4CAF50; color: white; padding: 10px;"> <p>広告に書かれている事から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品名</li> <li>・キャッチコピー</li> <li>・商品の特長</li> <li>・写真</li> </ul> <p>工夫：笑顔の写真を使っている。 意図：楽しく勉強できるところだと伝えるため。</p> <p style="text-align: right;">青 …… 赤 …… 緑</p> </div> </div>					



ICT 活用事例

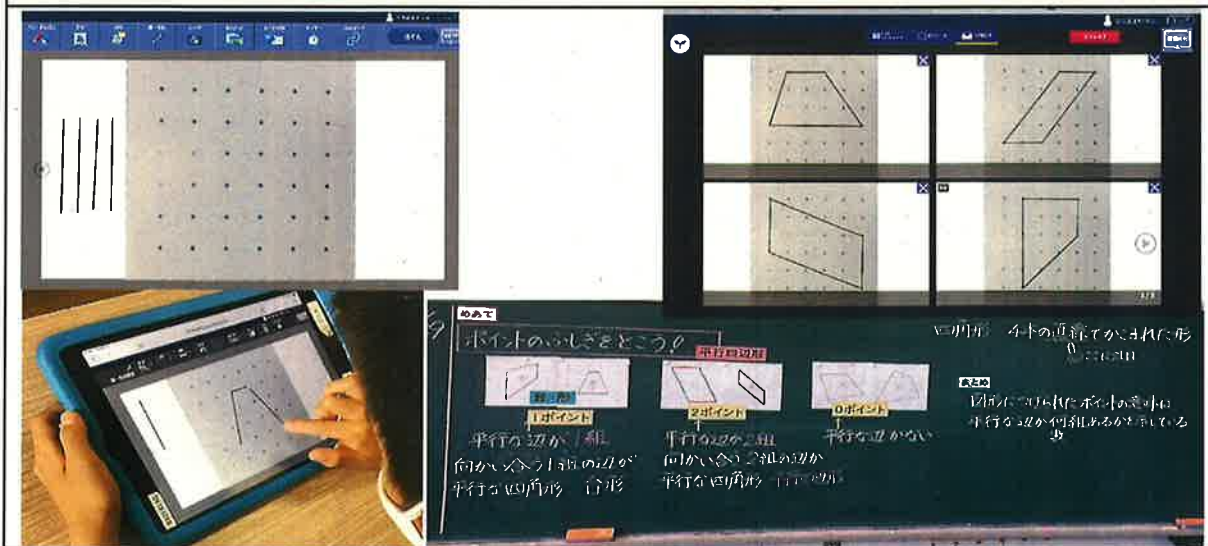
日付	7月5日	学年	1年	単元名	「かずしらべ」
		教科	算数		
本時のめあて		どうすればはやくくらべられるかな			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・ <u>その他</u> (Power point)			
	活用した機能	プレゼンテーション			
	目的	絵グラフのよさを実感させる。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①スライドを見て、一番多い果物と一番少ない果物を見つける方法を考える。(視覚化) [ICT]</p> <p>②スライドを見てより速く比べる方法について全体で確認する。スライドを動かしながら、見易くするための絵グラフをいっしょに作成していく。(共有化) [ICT]</p> <p>③スライドを見ながら「速く比べること」に焦点を絞った意見を発表する。(焦点化)</p>			<p>・パワーポイントを使うことで、テンポ良く資料を見せることができる。</p> <p>・「どうすれば速く比べることができるか」と焦点を絞ったことで、話し合い活動をずれることなく進めることができた。</p> <p>・授業の最後に異なる絵グラフを使って、多い物と少ない物を比べることで、絵グラフの便利さを実感することができた。</p> <p>・一つの画面を使って授業を進めたため、個人で考える時間をあまり確保することができなかった。</p>		
写真・資料・板書等					
					
<p>ばらばらだと数えるのに時間がかかるね。ならべるといいね！</p>		<p>縦に並べると見易くなったね。でも、高さがちがう...</p>		<p>これではやくくらべることができるようになったね。</p>	

ICT 活用事例

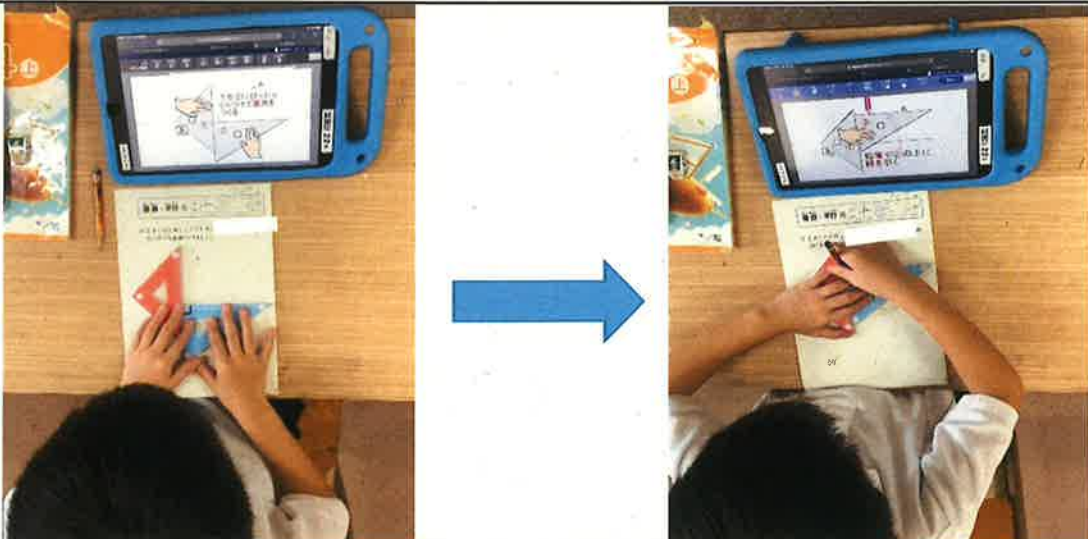
日付	6月29日	学年	4年	単元名	垂直・平行と四角形
		教科	算数		
本時のめあて		四角形について、辺の平行関係に着目した話し合い活動を通して、その分類をし、「平行四辺形」「台形」の作図をすることができる。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	「平行四辺形」「台形」の定義理解を確認する。 児童にできた喜びと問題を解く楽しさを感じさせる。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>① 図形につけられたポイントの意味を考え、辺の平行関係に着目し、「台形」「平行四辺形」の定義を確認する。</p> <p>② 等間隔点入りのカードと4本の直線を全員に送り、一人一人がタブレットで図形を作図する。(焦点化) [ICT]</p> <p>③ 一人一人がカードに描いた図形をオクリンクで集める。(視覚化・共有化) [ICT]</p> <p>④ 集めた図形を使って、「平行四辺形」と「台形」を見分ける問題にする。(視覚化・焦点化) [ICT]</p>	<p>・カードと4本の直線を全員に送ることで「4本の直線で囲まれた形」という四角形の定義をもとに、作図に向かうことができた。</p> <p>・四角形の辺の平行に着目して、図形につけられたポイントの意味を考えたことで平行四辺形や台形をスムーズに作図することができた。直線を動かすことで作図できることから描くことが苦手な児童も取り組みやすくなった。</p> <p>・完成した図形を共有し、分類分けする問題に使うことで、児童は作図できた喜びと問題を解く楽しさを感じることができた。</p> <p>・時間の都合で全員の図形を問題にすることができなかつたため、グループでの活動も取り入れていくとよかつた。</p>

写真・資料・板書等



ICT 活用事例

日付	6月23日	学年	特別支援	単元名	垂直と平行
		教科	算数		
本時のめあて		1組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク(スライド)			
	目的	手順に分けてスライドで1枚ずつ提示することで、今必要な情報のみ分かりやすく提示する。また、手の置き方を模倣することで、三角定規をしっかりとおさえさせ、適切な線を引かせるため。			
授業の流れ(UDの視点)[ICT]			成果と課題		
<p>①平行・垂直の直線をかく作図方法について、1つ1つの手順をタブレットのスライドを見せ、それに合わせて作図させる。(焦点化)[ICT]</p> <p>②三角定規のおさえる位置を模倣させ、三角定規をしっかりとおさえる位置を理解させることで、ずれを防いで作図をしやすくさせる。(視覚化)[ICT]</p> <p>③見ただけでは忘れてしまう作図の手順を繰り返し自分で確認できるようにし、確認しながら自力でかけるようにする。(視覚化)[ICT]</p> <p>④作図の手順のスライドをおいながら、正確に作図するためのポイントを見つけ、わかったことや気付いたことを発表する。(共有化)[ICT]</p>			<p>・刺激の入りやすい本児には、今やるべき手順を1つのみ示す方が落ち着いて学習できる。また、紙のカードをめくるタイプは、めくることに時間がとられて作図に集中できないため、1つの情報を1つの画面に提示している方法が適切であった。</p> <p>・本児は、不器用さがあり、三角定規をずれないようにおさえたり、意図的にずらしたりすることが苦手である。導入時は三角定規に厚みをもたせたことで、作図しやすそうだった。しかし、早く進みたい思いで先走って作図の線がずれてしまうので、丁寧に繰り返し練習させることで、技術を習得させていく必要がある。</p>		
写真・資料・板書等					
					

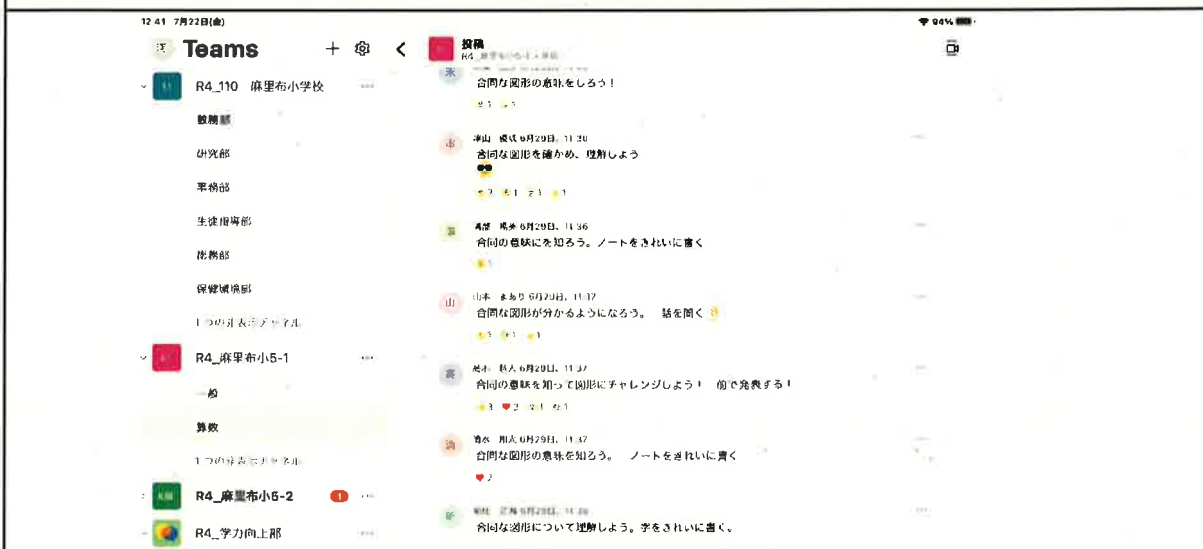


ICT 活用事例

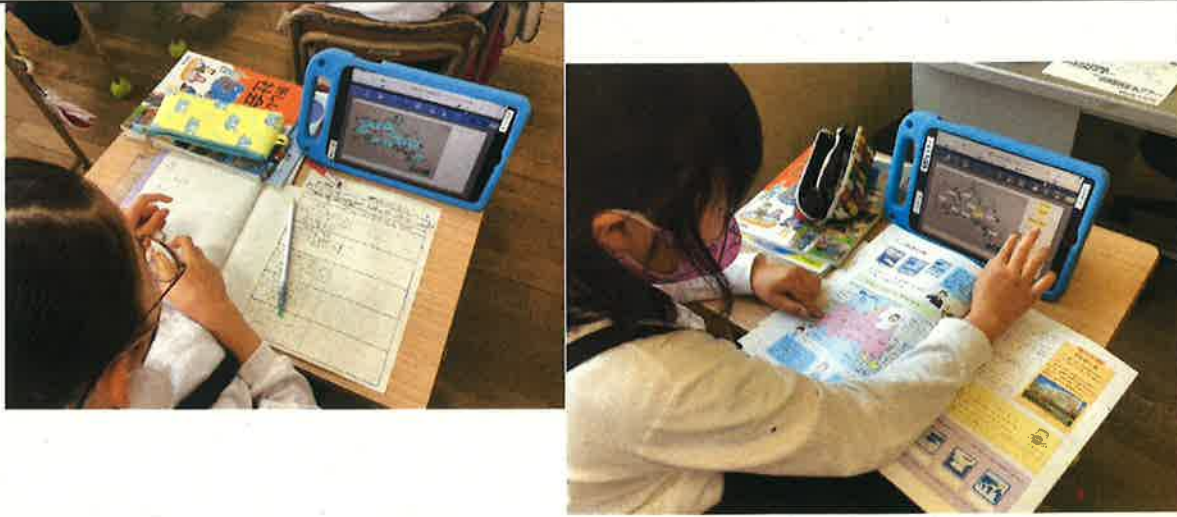
日付	6月28日	学年	5年	単元名	合同な図形
		教科	算数		
本時のめあて		図形を重ね合わせる操作を通して、合同の意味を理解する。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	teamsの投稿機能			
	目的	めあての共有することで、めあてが見つからない児童のヒントにするため。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>①絵を見て何の場面か話し合い、題意をとらえる。本時のめあてを考えてteamsに投稿する。[ICT]</p> <p>②三角形を重ねる操作活動を通して、形も大きさも同じ三角形を見つける。 子どものつぶやきや、調べ方を全体に広げながら一人学びを進めることで、調べ方が分からない児童が自力で調べることができるようにす。(共有化)</p> <p>③調べて分かったことをペアで話し合う。 話し合う時に、「辺の長さ」や「角の大きさ」を意識させることで、重なる意味について深めることができるようにする。(焦点化)</p> <p>④ペアで話し合ったことを発表し、全体で「形も大きさも同じ」について話し合う。 重ねる様子を実際にテレビに映し出すことで、重ねることがイメージできるようにする。(視覚化) [ICT]</p>	<p>・児童のつぶやきを全体に広げながら授業を展開することによって、躓いている児童が間接的に課題解決の見通しをもつことができた。</p> <p>・めあてをteamsの投稿で共有することで、自分だけのめあてをもつ意識づけになった。また、自分一人ではめあてをたてることのできない児童も、友達のめあてを参考にすることができた。</p> <p>・手立てを共有しすぎると、課題解決の難易度が低くなってしまい、達成感を感じることができない児童がいた。試行錯誤しながら粘り強く課題に取り組む時間も適宜設定していく必要がある。</p>

写真・資料・板書等



ICT 活用事例


日付	5 月 18 日	学年	4 年	単元名	県の広がり
		教科	社会		
本時のめあて		山口県にはどのような市や町があるだろう。			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した 機能	オクリンク			
	目的	市や町の位置を確かめるため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
①山口県の市や町がいくつあるか予想する。(焦点化) ②タブレット上で操作して市や町の場所を予想する。 [ICT] ③県内の市や町の名前、位置などを調べ、タブレット上で操作してまとめる。(視覚化) [ICT] ④資料を見て、県庁所在地や人口、面積について読み取り、話し合う。(共有化)			・予想を青色、調べた結果を黄色で示すことで、自分たちが住んでいる山口県の市町村がどこにあるのかを視覚的にわかった。 ・岩国市を中心として、他の市や町が近いのか、遠いのかを判断できるようになった。 ・漢字を書くのが苦手な児童もスムーズに調べてまとめることができた。		
写真・資料・板書等					
					

ICT 活用事例

日付	6月27日	学年	4年	単元名	水はどこから
		教科	社会		
本時のめあて		水の流れについてまとめて話し合うことで、飲料水を供給する事業は、どこが欠けても安全な水を届けることができなくなるということを理解することができる。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	水の循環がどのように行われているのか、それぞれの役割は何なのかを最終確認させる。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>①黒板に「水源の森」「ダム」「浄水町」「下水処理場」のイラストを貼り、それぞれの役割をセンテンスカードから選んで貼っていく。(焦点化)</p> <p>②全員で役割を音読し、読んだものからセンテンスカードをはがしていく。</p> <p>③それぞれの役割と、なぜその役割が必要なのかを話し合いながら再びセンテンスカードを黒板に貼っていく。(共有化)</p> <p>④黒板のセンテンスカードを音読しながら再びはがしていく。</p> <p>⑤オクリンクで全てのカードが混ざったイラストカードとセンテンスカードを送り、役割ごとに並び替えをする。(視覚化) [ICT]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の循環の中でも教科書に載っている4つの役割に絞り、センテンスカードもそれぞれ3つに限定して考えさせたことで、子ども達が内容を覚えることができた。</li> <li>・センテンスカードを貼ったりはがしたりを繰り返しながら役割を読むことで、同じ内容を形を変えながらアウトプットすることができた。</li> <li>・最終的なテストでは、オクリンクを使用し、センテンスカードとイラストカードをつなぐだけの作業にしたことで、全員が作業を短時間で終え、自信をもって発表することができた。</li> </ul>

写真・資料・板書等



START [Green Dam] - 水をたくわえる。 - 川の上流


START [Water Treatment Plant] - 浄水場で使う。 - 水の量の調節

START [Water Purification] - 水しつぱんさ。 - 川の水を取り入れる。 - 水をきれいにする。

START [Wastewater Treatment] - 使った水がくる。 - 水をきれいにする。 - 川や海に水を流す。

それぞれのタブレット上でカードの整理を行う。

今回学習したそれぞれの役割は、次時の単元のノートまとめの際に活用し、キーワードをおさえた学習のまとめができるようにした。




ICT 活用事例

日付	6 月 11 日	学年	6 年	単元名	「縄文のくにかから古墳のくにへ」
		教科	社会		
本時のめあて		米作りが始まって、人々の暮らしはどのように変わっていったらう。			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した 機能	オクリンク			
	目的	想像図の拡大をする。 衣食住の種類分けをする。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①弥生時代の想像図を見て、当時の人々の暮らしを想像し、本時の学習課題を把握する。</p> <p>②弥生時代の想像図を見て当時の暮らしについてわかる場所に印をつける。[ICT]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住で色を変えることで、話し合いの時に一目で分かるようにする。(視覚化)</li> <li>・ミライシードで拡大しながら当時の暮らしについて調べること、手に持っているものに注目する事ができるようにする。(焦点化)</li> </ul> <p>③出土品に着目し、米づくりが始まったころの人々の生活について考える。</p> <p>④本時のまとめをし、振り返りをする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・オクリンクに想像図を送っておくことで、拡大することができ、当時の暮らしについて細かく見ることができた。</li> <li>・拡大した場面を共有することで、全員がどこに着目しているかわかる状態で発表することができた。</li> <li>・ミライシードの機能を使うことで、衣・食・住で、色をわけることができた。</li> </ul>		





ICT 活用事例

日付	6月15日	学年	4年	単元名	電池のはたらき
		教科	理科		
本時のめあて		2このかん電池のつなぎ方で、モーターの回る速さや豆電球の明るさが変わるのはどうしてだろう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	班ごとに、直列つなぎや並列つなぎにしたときの電流の大きさがどうだったかを発表し、確認し合うため。			
授業の流れ(UDの視点)[ICT]			成果と課題		
<p>①モーターの回る速さや豆電球の明るさは、電流の大きさと関係がありそうだということから実験の仕方を考える。(焦点化)</p> <p>②簡易検流計を使って、直列つなぎや並列つなぎの回路をつくるにはどうしたらよいのかを、教師からのオクリンクの写真を見ながら確認して実験に入る。(視覚化・共有化)[ICT]</p> <p>③班ごとに、2この乾電池のつなぎ方によって、電流の大きさがどうなったかをオクリンクで提出して確認し合い、つなぎ方と電流の大きさの関係について共有する。(共有化)[ICT]</p>			<p>・直列つなぎや並列つなぎの回路の中に簡易検流計を入れて実験するのは初めてだったので、タブレットに送られてきた写真を見ながらの実験は効率がよく児童の意欲につながった。</p> <p>・自分の班の実験結果が、モニターに映されることで、自分たちの活動に達成感を味わうことができた様子だった。また、他の班との実験結果の共有化にも効果的だった。</p> <p>・オクリンクを効果的に使うために、単元ごとで、さらに計画的な使用を工夫していかなければならない。</p>		
写真・資料・板書等					
					

ICT 活用事例

日付	7月19日	学年	6年	単元名	生物どうしの関わり
		教科	理科		
本時のめあて		顕微鏡を正しく操作し、池のプランクトンを調べることができる。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	顕微鏡で観察できたプランクトンを撮影したものを、お互いに見合うことでプランクトンの多様性に気づく。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①プレパラートの作成方法を確認し、班で協力して池の水のプレパラートを作る。</p> <p>②顕微鏡で「プランクトン」を探し、タブレットで写真を撮りミライシードのオクリンクでカードに貼り付け提出する。(視覚化) [ICT]</p> <p>③自分の撮影したプランクトンをプリントにスケッチするとともに、提出された写真をお互いに見合う。(視覚化・共有化) [ICT]</p>			<p>・撮影したプランクトンの画像をお互いに見ることで、顕微鏡を適切に使ってもっと別のプランクトンはないかと熱心に活動する姿が見られた。</p> <p>・顕微鏡の接眼レンズとタブレットのカメラを合わせ写真を撮ることがうまくできない児童も見られた。また、タブレット上で拡大縮小できるため、見ている画面の倍率が正確につかめない。</p>		

写真・資料・板書等



ICT 活用事例

日付	4月18日 19日	学年	2年	単元名	新しいこといっぱい
		教科	生活		
本時のめあて		自然とふれあいながら新しい友達と関わることで、進級した喜びを感じ、これからの生活を意欲的に送ろうとすることができるようにする。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・ <u>その他(カメラ)</u>			
	活用した機能	カメラ			
	目的	校庭で見つけた草花を写真に撮り、みんなで見るため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>第1時</p> <p>①校庭に行って春の草花を見つける。 教師はタブレットで草花の写真を撮る。[ICT]</p> <p>②教室に戻り、見つけた草花を友達に紹介し合う。 その際に教師は撮影した画像を見せる。 (視覚化・共有化) [ICT]</p> <p>第2時</p> <p>③前時の画像を確認してから、もう一度校庭の草花を見に行く。(視覚化・共有化) [ICT]</p> <p>⑤教室で、草花の名前を確認しながらワークシートの色ぬりをする。</p>			<p>・草花の名前を知らない児童が多かったので画像が効果的だった。</p> <p>・クラス替え直後で、名前を覚えていない児童がほとんどだったため、草花を見つける際のちょっとした会話がコミュニケーションのきっかけとなり良かった。</p> <p>・ワークシートにあった「ノアザミ」「レンゲソウ」が無いことを伝えおくとよかった。探し回った児童がいた。</p>		
写真・資料・板書等					
					

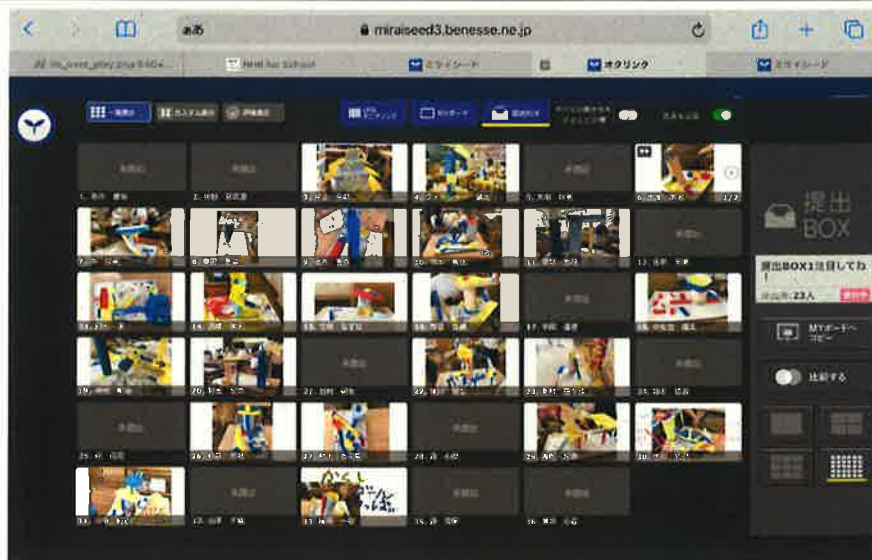


ICT 活用事例

日付	7 月 6 日	学年	4 年	単元名	コロコロガーレ
		教科	図工		
本時のめあて		ミニかんしょう会をして自分のコロコロガーレをもっとおもしろくしよう。			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した 機能	オクリンク			
	目的	制作中の自分の作品における「注目してほしいところ」(工夫点、困っている点)を見合い、助言し合うため。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>①制作中のコロコロガーレについて、自分が「注目してほしいところ」を決める。(焦点化)</p> <p>②各自で特に注目してほしい工夫点や困っている点がよく分かるようアップで撮影して短い言葉で説明を書き込み、提出ボックスに集める。(視覚化) [ICT]</p> <p>③「注目してほしいところ」を全体に提示して伝えたりタブレットの画面で見合ったりし、感想や改善案を発表する。(共有化) [ICT]</p> <p>④実際に互いの作品で遊びながら、直接、感想を伝えたり助言したりする。</p>	<p>・「注目してほしいところ」を撮影し、全体で見合ったことで、作品のよさや改善案について具体的な意見を伝え合うことができた。</p> <p>・制作途中での鑑賞会を行うことで、席の近い物同士だけでなくより多くの関わり合いが生まれた。今後、他の作品作りにおいても、このような機会を増やしたい。製作時間を確保するためには、毎回、作業の終わりに撮影して写真を共有することならば可能かと考えるが、よりよいICTの機能の活用法を試みたい。</p>

写真・資料・板書等



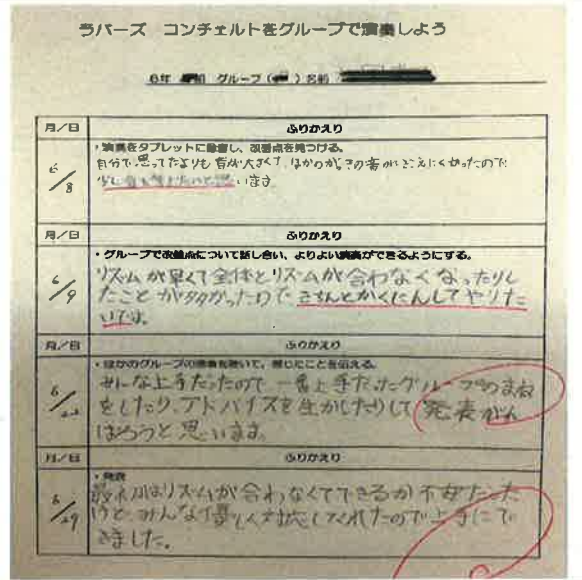
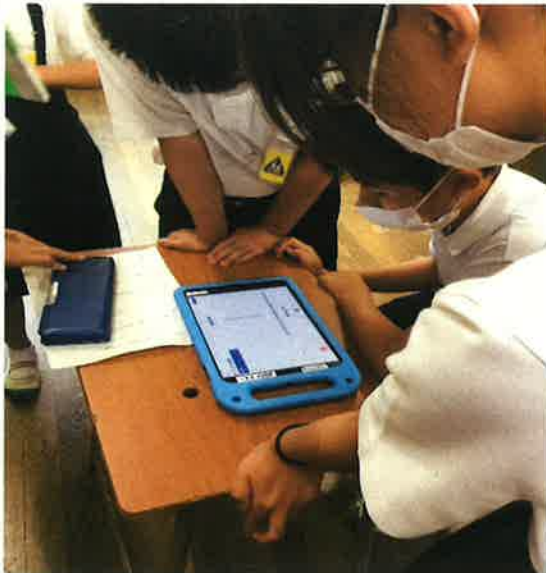


ICT 活用事例

日付	6 月 9 日	学年	6 年	単元名	ラバース コンチェルト
		教科	音楽		
本時のめあて		自分たちの演奏を聴いて改善点を見つけよう			
ICT の 活 用	活用した アプリケーション等	ミライシード ・ teams ・ <u>その他( )</u>			
	活用した 機能	ボイスレコーダー			
	目的	自分たちの演奏を録音し、それを聴きながら楽器選びや音のバランスについて気づくことができるようにする。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>① グループの演奏をタブレットに録音し、「楽器選び」と「音のバランス」の二点について気をつけながら聴く。(焦点化) [ICT]</p> <p>② 演奏を聴き、改善点を見つけ、よりよい演奏にするためにはどうしたらよいか話し合う。(共有化) [ICT]</p> <p>③ 他のグループの演奏を聴いて、感じたことを伝え合う。(共有化)</p> <p>④ 発表をする。</p>	<p>・自分たちの演奏を自分たちで録音するという活動は初めてであったが、児童は日頃からタブレットの操作に慣れているのでスムーズに取り入れることができた。楽器選びからのスタートで何度も録音して聴くことを通し、そのバランスや選び方について自分たちで気づき、改善していくことができた。</p> <p>・まだ「合奏」の感覚を掴めず個人で演奏しているイメージが抜けない児童もあり、振り返りには自分の楽器のことだけ書いている児童が何人かいた。今後もこのような活動を続けながら、合奏や合唱で「音を合わせる」ことの楽しさを実感できる時間を作っていきたい。</p>

写真・資料・板書等



ICT 活用事例

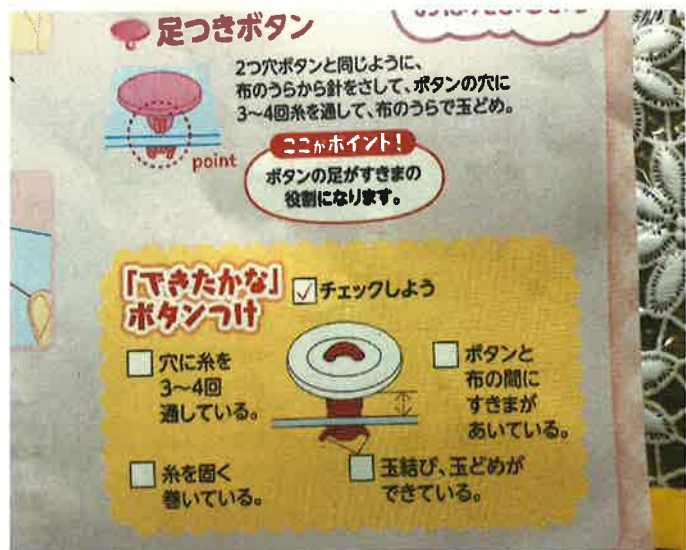
日付	7月8日	学年	6年	単元名	Let's go to Italy.
		教科	外国語		
本時のめあて		おすすめの国・理由・様子を伝えよう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	単元の目標の視覚化・共有化、単元の終末と同じ形式での表現練習			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①(聞) 教師がオクリンクで作成した資料を提示しながら「どこの国でしょう」クイズをするのを聞いて、おすすめの国の紹介の仕方を知る。(視覚化・共有化) [ICT] ※○○ is a nice country. You can see... .</p> <p>②(聞・話) 「どこの国でしょう」クイズで使ったものと同じ資料を、オクリンクで児童に送付し、その資料を用いて、友達とおすすめの国の紹介の仕方を練習する。[ICT]</p> <p>③(書) ②で話したことから、書きたいことを選んで教科書にお手本の文を参考にしながら書く。未習の単語、固有名詞は送付した資料を見て書き写す。</p> <p>④(話) 自分の紹介したい国を選んで調べ、オクリンクを用いて資料を作成する。[ICT]</p> <p>⑤オクリンクで作成した資料を基に、おすすめの国についてプレゼンテーションをする。[ICT]</p>			<p>・単元の最初に単元のめあてと併せてゴールのイメージを視覚的に示すことで、児童は目標を明確にイメージして単元の学習に取り組むことができた。</p> <p>・オクリンクを用いることで、たくさんの資料を送付でき、様々な国の魅力を知りながら必要な表現の練習をすることができた。</p>		
写真・資料・板書等					

ICT 活用事例

日付	7月14日	学年	5年	単元名	一針に心をこめて
		教科	家庭		
本時のめあて		四つ穴ボタンの付け方の手順を知り、安全に気をつけて効率よく作業を進めることができる。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・ <u>その他(教材会社ホームページ)</u>			
	活用した機能	動画視聴			
	目的	手順を映像で確認する。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>① 四つ穴ボタンの付け方の手順を映像で確認する。 (焦点化) [ICT]</p> <p>② 作業を進める上での注意事項の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二本取りで縫うと丈夫になること</li> <li>・糸を固く巻き、ほどけにくくする。</li> <li>・巻き付けた部分の側に針を刺すときれいに仕上がる。</li> </ul> <p>③ 針を刺す位置に気をつけてボタン付けをする。</p> <p>④ チェック項目に沿って、振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時停止をしながら手順を確認できたので、四つ穴のどこからどこへ針が通り、布にどのように縫い付けるかが分かりやすかった。</li> <li>・注意事項の確認をすることで、やり直しをすることが減り安心して作業ができた。</li> <li>・チェック項目が提示されていたので自分で振り返りができた。</li> <li>・交流学級で遅れた作業の補充には、映像があると教師も児童も手順が分かりやすく、チェック項目があることで到達目標が持てた。</li> </ul>

写真・資料・板書等





ICT 活用事例

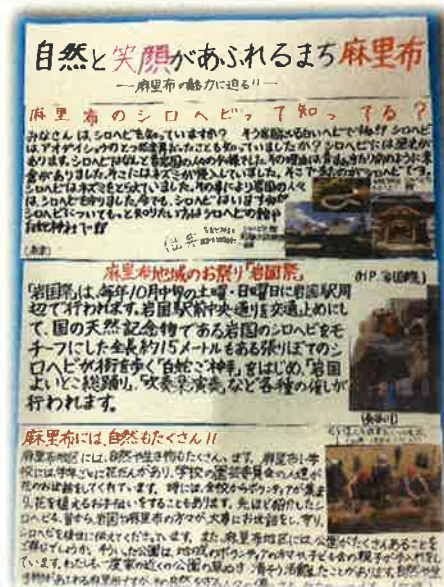
日付	6月28日	学年	6年	単元名	地域の魅力や仕事を発見しよう
		教科	総合的な学習		
本時のめあて		PRポスターの内容を決定しよう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	前時の板書を見ながら、内容決定の話し合いをするため。			

授業の流れ(UDの視点) [ICT]	成果と課題
<p>①教師が前時の板書の写真を全員に送る。(焦点化) [ICT]</p> <p>②タブレットで板書を見ながら、ポスターに載せる内容を話し合う。(共有化) [ICT]</p> <p>③決まったことをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日にちをまたいでも、前時の話し合いをまとめた板書を見ながら話し合いができた。(欠席児童も安心して参加できた。)</li> <li>・板書の写真に話し合いの結果を書き込み、そのデータを班のメンバーで共有できた。</li> <li>・ポスター完成には資料の写真も使った。写真を撮ったり検索した画像のデータを取り込んだりして、資料集めもスムーズに行えた。</li> <li>・オクリンクで作成したものの印刷が不便。</li> </ul>

写真・資料・板書等




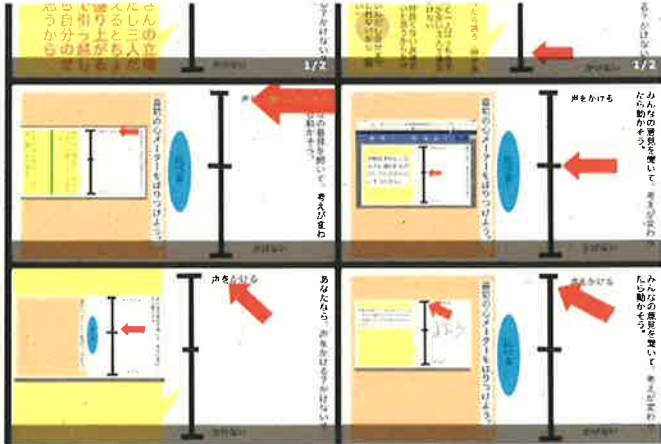
話し合いの様子



麻里布PRポスター



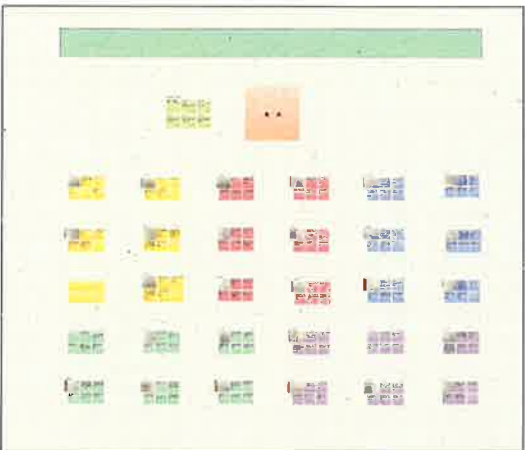
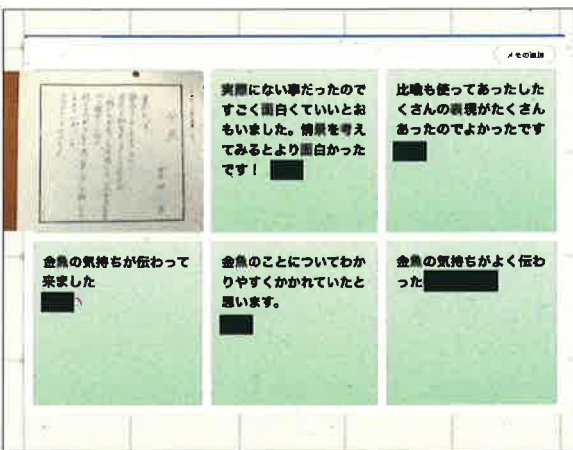
ICT 活用事例

日付	7月5日	学年	4年	単元名	正しい勇気をもって
		教科	道徳		
本時のめあて		正しいと考えたことを行うときに大切なことはなんだろう。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	教材の問題場面について、「心の迷い」の部分を目視的にわかりやすく、また、他の人との考え方と比べやすくするため。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
①教材の問題場面を提示し、ストーリーを把握する。(焦点化) ②仲間はずれにされた友達に対して自分だったらどう行動するか、オクリンクの心のメーターで表す。[ICT] ③自分と友達の意見を見比べ、心の葛藤について考える。(共有化) [ICT] ④登場人物の行動心理も踏まえ、自分の心のメーターを見比べる。(視覚化) [ICT]			・オクリンクで、心のメーターを表すことで、児童が自分の考えと友達の考えを自由に見比べ、異なる考えにも共感できた。 ・タブレットに字を書くことが難しい子、タイピングが苦手な子は、時間がかかり意見を見比べる時間がとれなかった。 ・友達の意見を踏まえて、もう一度児童自身の心のメーターを示し、友達の考えを聞く前と後を比べることで、自身の心の変化にも気づきやすくなった。		
					

ICT 活用事例


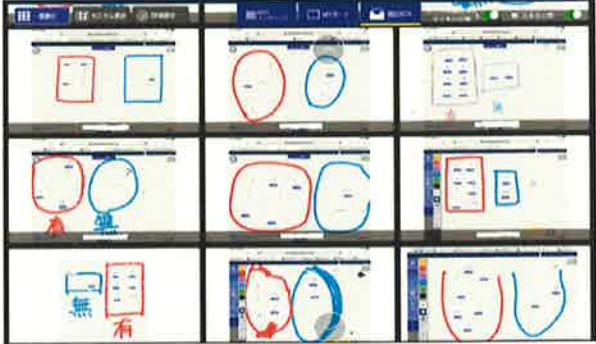
日付	6月21日	学年	中1	単元名	詩の世界
		教科	国語		
本時のめあて		友達のつくった詩を鑑賞しよう			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	作品のクラス全体への共有のため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①ワークシートに自分の詩を書く。</p> <p>②「Power Point」で詩のスライドを作る。[ICT]</p> <p>③スクリーンショットしたものを「オクリンク」で提出する。[ICT]</p> <p>④「オクリンク」で鑑賞し、1つ選び、鑑賞文を書く。(共有化) [ICT]</p> <p>⑤グループ活動で鑑賞文を読み合う。(共有化)</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の雰囲気にあったフォントや背景を工夫する生徒が多かった。</li> <li>・同じ中学生が作る多くの作品にふれることで、新しい発想や表現について、関心を深める生徒が多かった。</li> <li>・お互いの意外な一面にふれるきっかけとなり、作品を通して人間理解にもつながった。</li> <li>・他クラスの生徒の作品も鑑賞できるとよかったが、機能的な課題により難しかった。</li> </ul>		
写真・資料・板書等					

ICT 活用事例

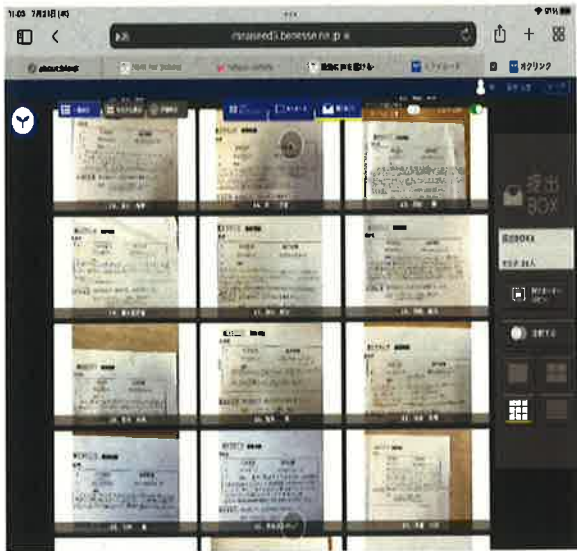
日付	7月5日	学年	中1	単元名	作った詩を鑑賞し合おう
		教科	国語科		
本時のめあて		友達が作った詩を互いに鑑賞し合うことを通して、作品に使われた表現技法や工夫に気づく。			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams その他(Whiteboard)			
	活用した機能	Whiteboard内のメモグリッド機能			
	目的	詩の表現技法や工夫に気づかせるため。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
① 友達の作った詩を鑑賞する。 (課題の焦点化) [ICT] ② 友達の詩を読んで、表現技法や工夫に気づき、コメントを書き入れる。[ICT] ③ 書き込まれたコメントを読んで、自分の次の表現活動に活かしたり、友達の良さを認め合ったりする。 (共有化)			・Whiteboard上のクラス全員分の作品とそのコメントを見ることができ、共有化が非常に容易である。 ・生徒自身が友達の発想の豊かさに驚いたり、表現技法の巧みさに感心したりする姿が見られた。 ・Whiteboardのデータ量が多くなると、タブレットがなかなか開かなかったり止まったりすることもあるので注意が必要。		
写真・資料・板書等					
Whiteboard					
全体図			詩に対するコメント		
					



ICT 活用事例

日付	6月2日	学年	中3	単元名	2章 平方根
		教科	数学		
本時のめあて		数の仲間分けをしよう			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシート・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	有理数と無理数の分類をさせ、他の生徒の意見を比べて再検討するため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①有理数と無理数の説明を聞く。</p> <p>②10個の数を示し、有理数と無理数に分類する。[ICT] …オクリンク上のカードを分類し、スクリーンショットを撮り、提出BOX①へ提出する。</p> <p>③全員の考えを共有し、再検討する。(共有化) [ICT] …提出BOXで全員の意見を公開する。</p> <p>④再検討した結果をもとに、全体で分類する。[ICT] …もう一度スクリーンショットを撮り、提出BOX②へ提出する。</p> <p>⑤有理数と無理数の見分け方をまとめる。</p> <p>⑥振り返りシートの記入する。 …学習のポイントを記入し、確認問題をやる。</p>			<p>○分類するという比較的簡単な作業だったため、全員が意見を出すことができた。</p> <p>○全員の意見を容易に共有することができるので、クラス全員の授業への積極的な参加が促され、普段発表することができない生徒の活躍の場面が増えた。</p> <p>●ボードに色を付けて記入、スクリーンショットを撮る、その画像を送るという流れが初めてだったので、作業に時間がかかった。</p> <p>●カードに色を付ける方法の方が、よりわかりやすくてよいと感じた。</p>		
写真・資料・板書等					
					
<p>1回目の生徒の意見 (有理数:赤、無理数:青)</p>			<p>2回目の生徒の意見 (有理数:赤、無理数:青) ※有理数8つ、無理数2つと伝えて、他の生徒の意見も参考に再検討</p>		

ICT 活用事例

日付	7月5日	学年	中2	単元名	江戸幕府の改革について考えよう
		教科	社会		
本時のめあて		江戸幕府の改革について、複数の資料や読み取りを通して自分の考えを表現することが出来る			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	オクリンク			
	目的	他者の意見や考えを共有することで、自分の考えを更に深め深化するため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①第1ラウンド:2つの改革のうち、どちらが幕府側にとって貢献度が高いのか選択する。</p> <p>②選択した改革の根拠について考えを深める。(焦点化)</p> <p>③第2ラウンド:クラス全員の意見を見て交流し、各々の理由について考えることで意見を深める。(共有化) [ICT]</p> <p>④第3ラウンド:他者の考えや話し合いを通して、自分の考えを更に深めて、最終決定をする。</p>			<p>・ほとんどの生徒が、自分の考えを他者と共有することで、更に自分の考えを深めることが出来ており、自主的に取り組めることが出来ていた。</p> <p>・決められた時間の中で思考を深めることは、生徒一人一人が考える必要な時間が違うので、提出ボックスに提出できない生徒がいた。</p>		
写真・資料・板書等					
<p>・生徒の感想から</p> <p>「両方の考えを比較して、自分だけで考えた意見を加えたり見直したりすることが出来た。様々な意見を知り、考えることができたので歴史に対しての考えが深まった。」</p> <p>「第3ラウンドで書いたように同じ意見であっても、根拠が違う意見を知ることができたし、違う意見でも納得できるものばかりで、新しい視点が自分にもできたような気がしました。」</p> <p>「オクリンクで全員に公開することで発表しない人の意見も知ることができたり、色々な視点の考えを自分なりに考えることができた。」</p> <p>「みんなで共有することが簡単なので自分の意見を知ってもらうことができ深めることができた。友達との交流がどれだけ大切か自分の考えを言うことが大切か分かりました」</p>					

ICT 活用事例

日付	6月14日	学年	中1	単元名	背骨のない動物
		教科	理科		
本時のめあて		バッタとエビの共通点に気づく			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・ <u>その他(インターネット)</u>			
	活用した機能	NHK for school「ものすごい図鑑」と画像検索			
	目的	バッタやエビの体のつくりをスケッチする			

授業の流れ(UDの視点)[ICT]	成果と課題
<p>①生物には脊椎動物と無脊椎動物がいることを確認する。</p> <p>②NHK for schoolの「ものすごい図鑑」でバッタの体のつくりをスケッチする。</p> <p>③画像検索でホッコクアカエビの画像で体のつくりをスケッチする</p> <p>※②と③は交互にモニターにも映し出しておく。[ICT]</p> <p>④バッタとエビの共通点を見つける。 →発表する。(共有化)</p> <p>⑤振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末で、全員が「ものすごい図鑑」を利用して集中してスケッチに取り組めた。</li> <li>360度、生物の観察ができる「ものすごい図鑑」を利用することで、生徒は細部までバッタのスケッチができた。また、足に節があることにも気づいた。</li> <li>「ものすごい図鑑」で観察できる生物は限られているので、観察できる生物が少ないことが課題である。</li> <li>画像検索とうまく併用することで、節足動物の特徴をつかむことができた。</li> </ul>

写真・資料・板書等



理科学習指導要領  
単元名「植物と動物」 単元「背骨のない動物」

めあて バッタとエビの共通点に気づく

教科書「動物」の「背骨のない動物」  
バッタ、エビはそれぞれ異なる体のつくりをして、  
足が長く伸びている。  
・外骨がある  
・足が節がある  
・足が長い  
・足が太い  
・足が細い  
・足が短い  
・足が長い  
・足が短い  
・足が長い  
・足が短い

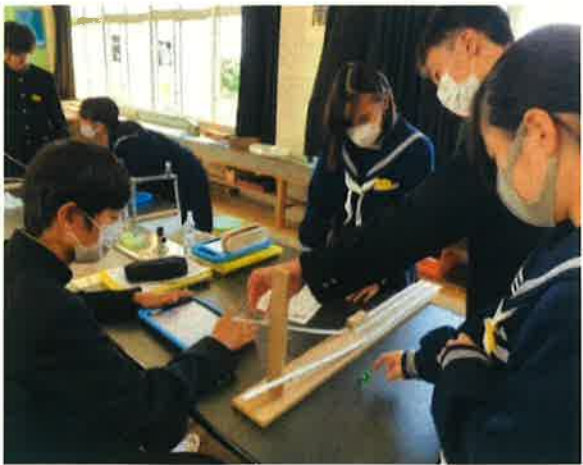
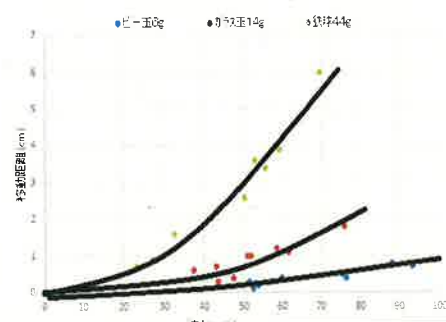
観察の仕方  
① 観察の目的を明確にする  
② 観察の場所や時間、観察する生物の種類を決定する  
③ 観察の道具や観察の方法を事前に確認する  
④ 観察の記録を取る  
⑤ 観察の結果をまとめる



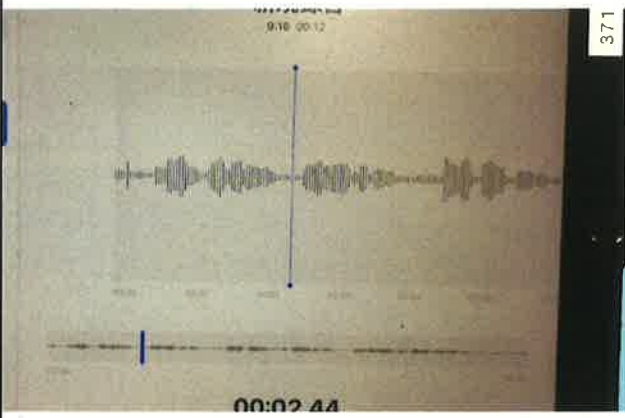

NHK for school  
ものすごい図鑑  
バッタの足  
エビの足



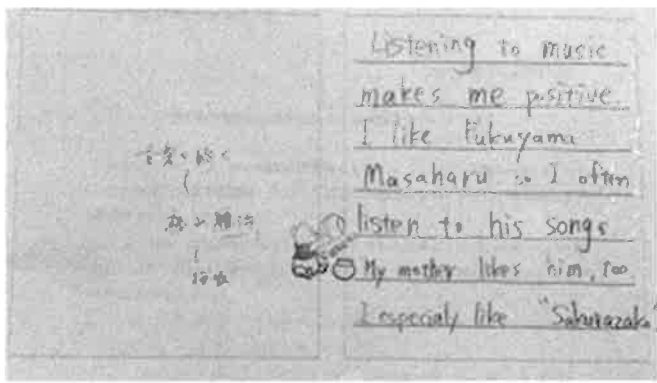
ICT 活用事例

日付	11月1日	学年	中3	単元名	運動とエネルギー (運動エネルギー実験)																																																																		
		教科	理科																																																																				
本時のめあて		運動エネルギーの大きさは何によって変化するか調べよう。																																																																					
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )																																																																					
	活用した機能	Excelファイルの共有																																																																					
	目的	グラフの自動作成による時間短縮																																																																					
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題																																																																				
①実験方法の確認する。 ②実験データをタブレットに入力する。[ICT] ③グラフの読み取りをする。 ④他の班のグラフの確認をする。(共有化) [ICT] ⑤考察する。			・回数が多いほどよい結果が得られるが、測定回数が多くなるほど、プロットするのにかなりの時間がかかるので、自動化したことで時間的余裕ができた。 ・以前、PC室の端末を用いて入力、グラフ化していたが、タブレットを活用することで実験室内で完結でき、すべての生徒がその場ですぐにグラフで確認できるようになり、考察することが容易にできていた。																																																																				
写真・資料・板書等																																																																							
			<p>4班 質量一定</p> <p>ビー玉 5g</p> <table border="1"> <tr><td>速度(cm/s)</td><td>0</td><td>23.7</td><td>18.9</td><td>22.5</td><td>25.4</td><td>27.3</td><td>29.2</td><td>30.3</td><td>21.4</td><td>26.4</td></tr> <tr><td>移動距離(cm)</td><td>0</td><td>0.2</td><td>0.4</td><td>0.1</td><td>0.5</td><td>0.3</td><td>0.8</td><td>0.7</td><td>0.2</td><td>0.4</td></tr> </table> <p>ガラス玉 14g</p> <table border="1"> <tr><td>速度(cm/s)</td><td>0</td><td>43.5</td><td>36.6</td><td>50.8</td><td>21.7</td><td>41.4</td><td>43.1</td><td>25.8</td><td>37.4</td><td>47.3</td></tr> <tr><td>移動距離(cm)</td><td>0</td><td>0.3</td><td>1.2</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.1</td><td>0.7</td><td>1.8</td><td>0.6</td><td>0.4</td></tr> </table> <p>鉄球 44g</p> <table border="1"> <tr><td>速度(cm/s)</td><td>0</td><td>55.8</td><td>23.1</td><td>60.7</td><td>27.2</td><td>52.8</td><td>32.5</td><td>43.6</td><td>30.0</td><td>59.2</td></tr> <tr><td>移動距離(cm)</td><td>0</td><td>3.4</td><td>0.7</td><td>6.0</td><td>0.9</td><td>3.6</td><td>1.6</td><td>2.3</td><td>2.6</td><td>3.2</td></tr> </table> 			速度(cm/s)	0	23.7	18.9	22.5	25.4	27.3	29.2	30.3	21.4	26.4	移動距離(cm)	0	0.2	0.4	0.1	0.5	0.3	0.8	0.7	0.2	0.4	速度(cm/s)	0	43.5	36.6	50.8	21.7	41.4	43.1	25.8	37.4	47.3	移動距離(cm)	0	0.3	1.2	1.0	1.0	1.1	0.7	1.8	0.6	0.4	速度(cm/s)	0	55.8	23.1	60.7	27.2	52.8	32.5	43.6	30.0	59.2	移動距離(cm)	0	3.4	0.7	6.0	0.9	3.6	1.6	2.3	2.6	3.2
速度(cm/s)	0	23.7	18.9	22.5	25.4	27.3	29.2	30.3	21.4	26.4																																																													
移動距離(cm)	0	0.2	0.4	0.1	0.5	0.3	0.8	0.7	0.2	0.4																																																													
速度(cm/s)	0	43.5	36.6	50.8	21.7	41.4	43.1	25.8	37.4	47.3																																																													
移動距離(cm)	0	0.3	1.2	1.0	1.0	1.1	0.7	1.8	0.6	0.4																																																													
速度(cm/s)	0	55.8	23.1	60.7	27.2	52.8	32.5	43.6	30.0	59.2																																																													
移動距離(cm)	0	3.4	0.7	6.0	0.9	3.6	1.6	2.3	2.6	3.2																																																													

ICT 活用事例

日付	6月14日	学年	中2	単元名	Unit 3
		教科	英語		
本時のめあて		英語らしい発音とイントネーションを意識し、感情を込めて音読しよう			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams (その他( ))			
	活用した機能	ボイスメモ			
	目的	ALTと自分の音読の波形を比べることによって、自分の発話の特徴に気づき、改善しようとする意欲をもたせるため			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①会話文の場面をとらえ、話し手の感情を想像する。(焦点化)</p> <p>②感情を込めて音読する練習をし、ボイスメモを使って録音する。[ICT]</p> <p>③ALTが録音したものを聴き、その波形を自分が録音したものとは比べる。(共有化) [ICT]</p> <p>④波形を参考に、発音やイントネーションを意識して何度も練習する。</p> <p>⑥グループで発表し合う。(共有化)</p> <p>⑦本時の仕上げとしてもう一度録音し、最初に録音した波形からの変化を確認する。[ICT]</p>			<p>・ALTと自分の波形を比べ、自分の音読が抑揚のないものであることに気づき、驚く様子が見られた。その気づきが意欲につながっていた。</p> <p>・音声+波形という2つの方法で自分の音読を客観的に見ることができた。</p> <p>・最後に波形にも音声にも変化が見られ、達成感を感じていた。</p> <p>〈成果と課題〉</p> <p>発話の波形を見ることにより、自分の特徴を客観的に捉えることができた。それに他者の助言が加わり、改善への意欲につながった。これを実際の会話場面に生かせるよう、指導を工夫したい。</p>		
写真・資料・板書等					
					
ALTの発話			生徒の発話		

ICT 活用事例

日付	5月2日	学年	中3	単元名	Unit I ~Sports for everyone~
		教科	英語		
本時のめあて		自分にとってポジティブにしてくれることを表現しよう			
ICTの活用	活用したアプリケーション等	ミライシード・teams・その他( )			
	活用した機能	teamsの投稿機能			
	目的	生徒の英作文を投稿し、見本として示すこと。			
授業の流れ(UDの視点) [ICT]			成果と課題		
<p>①トピックを提示し、話す内容について考える。 What makes me positive?</p> <p>②1分間のスモールトークを行い意見交換を行う。</p> <p>③会話の内容を文章で表現したのちに提出する。</p> <p>④英作文を添削した後に、生徒の書いた内容をteamsにて共有する。(焦点化) [ICT]</p> <p>⑤良かった点について感想を投稿する。(共有化)</p> <p>⑥新出単語の確認をする。</p> <p>⑦本文の概要把握をする。</p> <p>⑧振り返りをする。</p>			<p>本文の内容に関するトピックについて帯活動で英会話を行うことで、教科書の内容理解が深まっている。</p> <p>また、帯活動で行うスモールトークの内容について、定期的にTeamsを活用して投稿をすることで、良い例に触れることができるので、生徒達が良い例を参考に安心して英作文に取り組めるようになってきたと感じている。</p>		
写真・資料・板書等					
			<p>主に帯活動の時間に活用している。このような、写真を投稿し、生徒同士でコメントをして、次回の帯活動までにより良い文章を考えてくる。</p>		